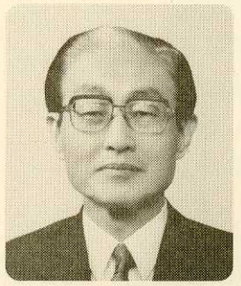
ご挨拶



財団法人 成長科学協会
理事長　**鎮目 和夫**

当協会では、設立当初(昭和52年)から子供の身体の成長の促進を主たる目的として事業を行って参りました。しかし、背が伸びても心の発達がそれに伴わなければならないということから、平成4年協会内に、心の発達研究委員会を設置し研究集会を行うと共に、昨年迄6回公開シンポジウムを行って参りました。そして昨年6月のシンポジウムでは「子供とまんが、テレビ、ファミコン電子メディア、心の発達にどう影響するか」をテーマに取り上げましたが、この問題を更に深く検討するため「メディア時代の子供たち～その光と影～」という題で第7回を開催することになりました。このシンポジウムは昨年7月以来もっと早く開催したいと思っておりましたが、会場の都合で本年4月になったことをお詫びいたします。今回は、今までより討議の時間も多く取りましたのでご参加の皆様にはこの問題をよく考え、子供の心の発達に役立てていただきたいと思います。

心の発達研究委員会
委員長　**岡　宏子**

子どもたちが健やかに、又人間としての可能性を充分に展開させ、その成長を遂げてほしいとの願いから発足した「心の発達研究委員会」ですが、これまで父親、働く母親、子どもの発達の現状、食生活の問題、しつけのあり方と、公開シンポジウムを重ねて参りました。前回とりあげた子どもたちの世界に深く浸透してきた現代の「メディア」をめぐる諸問題についての討論は、参会された皆様のご関心と結びつき、「これをもう少し掘り下げてほしい」との声をきかせていただきました。

そこで今回は、ニューメディアの中に浸された幼い子ども、青少年の心の問題を、きり込み方にも工夫を加えた上で、どう考え、どう対処すべきか、より具体的に考えたいと思います。

開催にあたって

ニューメディアの中で育つこと～その光と影～

人をとりまく環境の中で、その急速な変容が人の生活に又ものの考え方やとりわけ人間形成の仕方そのものに、大きな影響を及ぼすようになったと思われるのが、「新しいメディア」の問題でしょう。

このような文化環境の変化が、子どもの思考課程にどんな刺激を与え、どんな新しい展開をもたらすことになったのでしょう。更にその一方で、子どもの心の発達に何か問題をもちこみ、ある種の歪みをもたらしていないでしょうか。昨年7月、ここマリオン会場での第六回公開シンポジウムは、この問題を追求するため開催いたしました。

その折、スピーカの提言と討論のあと、会場の皆様からも真剣なご質問を頂きましたが、時間の制約もあっていくつもの問題が残されました。そこで、アンケートでも「ここがもっときたかった…」のご要望が特に強くよせられた点に焦点をあてて、今回も、この「新しいメディアの中の人間、心の発達」をとりあげることにいたしました。

今回の主要テーマを、新しいメディアの中で育つことの「光と影」といたしましたのは、前回、この新しい文化環境のもたらす人の思考の進展のあり方、子どもの心の発達の新展開について語られた部分の裏にある「影」にも目を向けて、心の発達にはどんな進展がもたらされ、その裏側で人が失っていくもの、歪められていくものはないのかも、考えたいからです。

その上で、もしこの新しい文化環境の中で育つ子どもたちの心に、感性に、又創造的思考に、これまでの我々のそれを超えた展開がもたらされる可能性があるのなら、「影」になる問題を起こさずに、その発展を期するためには、親は、教師は、社会は、どんな心構えと対処が必要かを、具体的に考えてみたいと思います。

新しい文化環境の中で育つことが必然的なものならば、次の世代を引き継ぐ子どもたちに、心の発達の「かげり」をもたらすことのない進展を、と望みたいものです。

心の発達研究委員会
委員長　岡　宏子(大学セミナー・ハウス館長、聖心女子大名誉教授)
委　員　東　　洋(白百合女子大児童文化学科長、東大名誉教授)
〃　小林　登(甲南女子大学教授、国立小児病院名誉院長)
〃　原ひろ子(お茶の水女子大女性文化研究センター教授)
〃　大野澄子(聖心女子専門学校保育科長、日赤医療センター)
〃　丹羽洋子(育児文化研究所長)
〃　森　玲子(東京都立川高等保育学院)
顧　問　鎮目和夫(成長科学協会理事長、東京女子医大名誉教授)

プログラム

テーマ：　メディア時代の子どもたち

～その光と影～

司会　岡　宏子

13:00～14:15	開会　あいさつ	鎮目　和夫
	プレゼンテーション	岡　宏子
	演者からの提言	石井　威望
		養老　孟司
		東　洋
14:15～14:30	休　憩	
14:30～16:20	ディスカッション	
	質疑応答	

演者紹介

岡　宏子（おか　ひろこ）〈司会〉

(財)大学セミナー・ハウス館長。聖心女子大学名誉教授。
専門は発達心理学。「心の発達」をとらえる視点の広さと分析の明確さには定評があり、その明快でわかり易い話にファン層が厚い。当研究委員会委員長。

東　洋（あずま　ひろし）

白百合女子大学児童文化学科長。日本発達心理学会会長
教育心理学、発達心理学会の重鎮。東京大学教授、教育学部長を経て現職。心の発達と教育について、日米比較研究など。

石井　威望（いしい　たけもち）

慶応義塾大学大学院政策・メディア研究所教授
東京大学医学部卒業後医師となり、その後同大学工学部を卒業。大学院終了後工学博士。東京大学教授を経て、現在名誉教授。東京女子医科大学客員教授兼任。専門はシステム工学、マルチメディア、母子相互作用など。

養老　孟司（ようろう　たけし）

元東京大学医学部教授。解剖学者。
北里大学教授。
東京大学を卒業後、解剖学を専攻。現在は脳や身体を中心において、文科・理科を総合した人間学の構築を試みている。

◆これまでの公開シンポジウム

第一回「父親は子どもに何ができるか」　平成５年２月27日(土)
※㈱海鳴社より記録を出版
第二回「子どもの発達は本当におかしいのか」平成５年９月４日(土)
第三回「働く女性と子ども」　平成６年１月８日(土)
第四回「これでよいのか食生活」　平成６年７月９日(土)
※㈱海鳴社より記録を近日出版予定
第五回「しつけとは何だろう」　平成７年１月21日(土)
※㈱海鳴社より記録を出版予定
第六回子どもとまんが、テレビ、ファミコン、電子メディア…
「心の発達にどう影響するのか」　平成７年７月29日(土)